

保育士及び幼稚園教諭養成課程における授業研究

－「保育内容の研究表現」（造形表現）について－

守 川 美 輪

A Study of College Classes for Nursery School and Kindergarten Teachers

－ “The Study of Childcare through Art” －

Miwa MORIKAWA

1 はじめに

「保育内容の研究表現」は本学の保育科と初等教育科で開設される授業科目である。1年次開設2単位通年の演習科目で、平成11年度から保育科で、平成12年度からは初等教育科で開設される。身体表現、音楽表現、造形表現の三分野を含み、三名の教員で分担して授業を行う。

「保育内容の研究」は「保育内容の研究表現Ⅰ」「保育内容の研究表現Ⅱ」「保育内容の研究表現Ⅲ」に分けていた授業科目をひとつに統合したものである。それぞれ1単位の演習科目が半期開設されていたので、科目の改正によって授業時数は少なくなっている。

筆者は「保育内容の研究表現」の造形表現を担当する。これまで「保育内容の研究表現Ⅲ」を担当し授業内容方法について様々な試みを行ってきた。これを整理し、系統立て、評価し、授業時数が減少する中でも学習効果の高い授業を構築していきたいと考えている。

2 研究の目的

保育士及び幼稚園教諭養成課程における授業科目「保育内容の研究表現」（造形表現）の授業についてより適切なものを創造する。

受講生の意欲を高め、造形表現活動を指導する保育士及び幼稚園教諭として必要な知識、技能を出来るだけ修得させ得る授業を構築する。

3 研究の方法

現在筆者が宮崎女子短期大学で担当している「保育内容の研究表現Ⅲ」の教育実践内容について

その問題点や得られた成果を明らかにし、改善のための方策を得る。

始めに授業の目的を明らかにする。次に現在行っている授業について目的に合った内容が構成されているか検討する。さらに受講生の授業前の実態及び授業後の達成度や要望と照らし合わせ、授業内容や方法が適切であったかを検討する。終わりに改善の要点と今後の課題を示す。

4 授業科目「保育内容の研究表現」（造形表現）の目的の検討

(1) 学生の実態及び造形活動の指導者として求められる能力

授業の目的を設定するにあたり、学生の実態、造形的な創造活動の基礎的な能力、造形表現活動を指導する保育士や幼稚園教諭として必要とされる能力について述べる。

① 学生の実態及び要望

造形表現活動に苦手意識を持っている学生が多い／保育現場で役立つ内容を学習したいと思っている学生が多い

② 造形表現活動の基礎的な能力^{注(1)}

自分から進んで活動する意欲／美しいものなどを感じとる感性／自分のイメージを持ち、それを膨らませる想像力／色彩や形態、材料に関わる造形感覚／実際に製作していく上での構想力や計画性／様々な材料や道具を取扱う技能

③ 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」から読取った、造形表現活動を指導する保育士や幼稚園教諭として必要とされる能力^{注(2)}

自ら美しいものに気づき、それを表現することができる／様々な素材、用具を準備することができる／生活の中で様々な造形表現活動の場をつくることのできる／子どもの表現を引き出すことができる／子どもの表現に共感することができる

(2) 授業の目的

学生の実態及び造形活動の指導者として求められる能力から次のような目的を導き出した。

- A 造形表現活動の楽しさを実感する
- B 造形感覚を高め、表現力を伸ばす
- C 様々な材料や用具の取扱い、製作の方法や技法を習得する
- D 造形表現活動の目的、指導方法を理解する
- E 造形表現活動の指導について意識し、できる範囲で経験する

5 平成10年度後期実施初等教育科対象「保育内容の研究表現Ⅲ」（1単位）の授業内容

(1) 講義内容

- 1 表現とは
- 2 造形表現活動はどうして面白いのか
- 3 造形表現活動によって得られるもの
- 4 造形表現活動の指導

- 5 幼稚園教育要領
- 6 絵をかかない子、かけないという子への指導
- 7 幼児の作品の読み取り
- 8 描画活動の発達
- 9 製作活動の発達

(2) 実技内容^{注(3)}

- | | | |
|--------------|--------------|-------------------|
| 1 染め紙 | 13 身近な人の顔 | 25 フィンガーペインティング |
| 2 合わせ絵 | 14 お店ごっこの商品 | 26 お話の絵（あみものライオン） |
| 3 糸引き絵 | 15 染め紙のさいふ | 27 生活の絵 |
| 4 ローラー絵 | 16 マーブルリング | 28 てぶくろの模様 |
| 5 滲み絵 | 17 不思議な種 | 29 型押し |
| 6 三角かざぐるま | 18 ポップアップ案内状 | 30 ペーパーサート |
| 7 作品保存袋・桜切り紙 | 19 魚つり | 31 パネルシアター |
| 8 空を飛ぶもの | 20 牛乳パックのけん玉 | 32 作品へのコメント交換 |
| 9 作品に物語をつける | 21 紙コップの風車 | 33 カエルのカスタネット |
| 10 折り紙のくるくる | 22 わりばしの花 | 34 新聞紙の帽子 |
| 11 紙の帯のかたつむり | 23 スライム | 35 牛乳パックのこま |
| 12 新聞紙のちぎり絵 | 24 小麦粉ねんど | |

6 授業内容の検討

(1) 授業目的と授業内容の構成

授業目的と平成10年度後期実施初等教育科対象「保育内容の研究表現Ⅲ」（1単位）の授業内容がどう関わっているかを分類した。

実技で取り扱った題材については授業目的A、授業目的B、授業目的Cのいずれの目的にも資するが、その題材においての主要な目的を明確にするために、授業目的ABCのうちのいずれかに分類した。

授業目的Aは「造形遊び」的な要素が強いと考えられる題材を振り当てた。「造形遊び」とは材料を自由に操作しながら発想していく活動である。授業目的Bは「自己表現」的な要素が強い題材をあてた。自分の思いを込めて表現していく題材である。表現しながら各人の「造形感覚」を高めていくような活動である。授業目的Cは主に「材料体験」的な色合いが濃いものや、製作の手順がほぼ決まっているような「工作」的な活動をあてた。実際に飾って楽しむものや、遊びに使うおもちゃ製作などがこれにあたる。

授業目的	授業内容
A 造形表現活動の楽しさを実感する	実技1 実技2 実技3 実技4 実技5 実技12 実技14 実技16 実技23 実技24 実技25
B 造形感覚を高め、表現力を伸ばす	実技9 実技17 実技18 実技26 実技27 実技28 平面作品集の作成
C 様々な材料や用具の取扱い、製作の方法や技法を習得する	実技6 実技7 実技8 実技10 実技11 実技13 実技15 実技19 実技20 実技21 実技22 実技29 実技30 実技31 実技33 実技34 実技35
D 造形表現活動の目的、指導方法を理解する	講義1 講義2 講義3 講義4 講義5 講義6 講義7 講義8 講義9 レポート作成
E 造形表現活動の指導について意識し、できる範囲で経験する	実技32 パネルシアターの発表

(2) 幼児が行う造形表現活動の内容に関わる実技内容の構成

幼児が行う造形表現活動について経験し、そのねらいや大切さを実感することは教材研究をする上で意味あるものである。ここでは、幼児が行う造形表現活動が授業で経験できているかを調べた。幼児が行う造形表現活動の内容は「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」を参考にし、以下の10項目に分類した^{注(4)}。

幼児が行う造形表現活動	実技内容
① 様々なものに会い、気づく	
② 素材や材料を使って遊ぶ	実技1 実技2 実技3 実技4 実技5 実技16 実技23 実技29
③ 様々な材料や用具を使って、感じたことや考えたこと、想像したことをかいたり、つくったりする	実技8 実技9 実技12 実技13 実技25 実技27 実技28
④ 童話や絵本などからイメージを広げてかいたり、つくったりする	実技17 実技26
⑤ つくったもので遊ぶ	実技6 実技10 実技14 実技19 実技20 実技21 実技33 実技35
⑥ つくったものを飾って楽しむ	実技11 実技22
⑦ 共同でかいたり、つくったりする	実技24
⑧ 生活に使う簡単なものをつくる	実技7 実技15 実技18 実技34
⑨ 作品を互いに見せ合って楽しむ	実技32
⑩ 美しいものを見て喜び、身のまわりを美しくしようとする	

(3) 造形表現活動の指導上の配慮事項に関わる講義内容の構成

ここでは幼児に造形表現活動を指導する上での配慮事項について授業のなかで触れられているかを調べた。造形表現活動の指導上の配慮事項は「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」を参考にして以下の10項目に分類した^{注(5)}。

造形表現活動の指導上の配慮事項	講義内容
① 身近なものに触れたり、扱ったりして心を動かす経験ができるようにする	講義4 講義5
② 子どもの感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することができるようにする	講義1 講義5 講義7
③ 保育者は言動に留意し、子どもが美しいものを感じたり、よいものを選んだりすることに良い影響を与えられるようにする	
④ 子どものイメージが湧き出るような素材や用具を用意して、のびのびと表現して遊ぶ経験を持たせるようにする	講義4 講義6
⑤ 個々の子どもの興味や自発性を大切にし、一斉に経験させようとせず、子どもの思いに合った表現ができるようにする	講義6
⑥ 子ども同士のまねや認め合いを大切にしながら、表現の意欲や創造性を育てるようにする	
⑦ 結果にとらわれず、個々の子どもの創意工夫を認め、創造的な喜びが味わえるようにする	講義4 講義7
⑧ 子ども同士の認め合いを大切にし、共同で表現することの喜びが味わえるようにする	
⑨ 表現しようと思うもののイメージが湧くような雰囲気をつくり、様々な材料や用具を適切に整え、表現を楽しみ、創造性が豊かになるようにする	講義4 講義5
⑩ 子どもの表現しようとする気持ちを大切にし、生活と遊離した特定の技能の修得に偏らないようにする	講義5

7 授業内容の検討の結果と考察

(1) 授業目的と授業内容の構成について

授業目的Aについてはそれに応じた実技が多い。目的に合わせた授業内容が構成されていると考えられる。授業目的Bについてはそれに応じた実技が少ない。その指導が十分でなかったと考えられる。授業目的Cについてはそれに応じた実技が多い。授業目的Aや授業目的Bに対応させて分類した題材も授業目的Cの達成にも資するので、受講生は様々な製作体験をしていると言える。しかし、授業で取り扱った材料や用具が教室において準備しやすいものにとどまっているということも考えられる。

授業目的Dについてはそれに応じた講義を行い、またレポート作成を課している。講義は様々な内容を準備しているが、その内容構成が十分なものであるとは言えない。レポートの課題は、「製作活動を通して気づいたこと」と「造形表現活動が大切な理由」の二項目である。多くの例を挙げて分析的に書くことを期待しているが、それを満たしたレポートは少ない。レポート作成で何を学ぶのかその目的意識をはっきりさせて取り組ませる必要がある。

授業目的Eについては実技一題材とクラスの内の四名のパネルシアターの発表の経験にとどまっている。この授業目的Eは著者が本研究において新たに見出したもので、今後この目標に応じた授業内容の構築が必要である。

(2) 幼児が行う造形表現活動の内容と実技内容の構成について

幼児が行う造形表現活動のうち、②、③、⑤、⑧の内容にあたる実技を多く行っている。②、③については、体験する材料の種類が十分であるか検討の余地はあるが、これらの内容は多く扱っている。

④、⑥の内容は実技であまり取り上げていない。④の内容は絵で表現することはしているが、立体にする経験はない。しかしお話からイメージを広げていくという楽しさは実感できているのではないかと考えている。絵以外に、立体にする活動があることを例を挙げて説明することで、それを補うことができると考えられる。⑥の内容は特に多くの経験が必要だとは考えていない。ただ、授業で扱う題材の他に二、三の例を説明することで、飾るものについての材料や内容についてのイメージを広げることができると考えられる。

⑦、⑨の内容はそれぞれ実技一題材のみである。製作活動の説明の際に、共同製作のねらい及び具体例や、指導上の留意事項について触れていなかった。今後は共同製作のねらいや留意事項について経験を通して会得できるような題材を準備する必要がある。

⑨の内容は、学友の作品へのコメント交換という形でのみ、授業で取り上げている。作品を鑑賞し合うことの大切さや意味について説明するだけでなく、実際に学友の作品を普段から積極的に見たり、その良さを味わうことを授業の中に位置づけていくことは有意義であると考えられる。

①、⑩の内容は授業では意識して取り上げていない。受講生が生活の中で積極的に美しいものや良いものを見出していくという経験を積んでいるとは言えず、その価値や意味について深く意識してはいないと考えられる。美しいものや良いものから受けた感動を造形的に表現する経験も不足していると考えられる。美しいものを愛好し、身のまわりを美しくしたり、良いものに価値を見出して大切にすることを受講生に実感、実践させていくための題材を準備し、授業の中に重要な事項とし位置づけていくことが必要である。

(3) 造形表現活動の指導上の留意事項に関わる講義内容の構成について

造形表現活動の指導上の配慮事項についての項目のうち、授業の講義のなかで直接的な言葉で取り上げて説明していないものが三項目あった。造形表現活動の指導上の留意事項②、⑥、⑧である。

②は日常の保育者の言葉や行動が子どもの感性に与える影響についての項目である。美しいものや良いものに保育者が気づき、保育者自身が美しいものやよいものを楽しむ姿を見せたり、美

しいものや良いものを取り上げて幼児に示したり、幼児と共に楽しんだりすることの大切さや意味を講義の中で既に取り上げていた。しかし、保育者の日常の言動が子どもに与える影響について問いかねたり、考えさせたりすることは欠けていた。日常の保育者の言動が子どもの感性や表現に影響することを例をあげて説明することは意味があると考えられる。

⑥、⑧は子どものまねや共同製作に関する事項である。子どもの認め合いの重要性については説明しているが子どもがお互いに良い所を取り入れたり、まねし合って成長していくことについては考えさせていなかった。講義や共同製作の際に意識させていく必要がある。

造形表現活動の指導上の配慮事項①、②、④、⑤、⑦、⑨、⑩についてはその配慮事項と同様の内容を取り上げ、製作活動の際にも説明を加えているが十分ではない。受講生が一層指導上の配慮事項について心に留め、実践していく時の基盤となるような講義を新たに組み上げることが必要である。

8 授業内容の検討のまとめ

(1) 授業内容の検討結果

1. 造形表現の楽しさを実感するための授業内容は十分である。
2. 造形感覚を高め、表現力を伸ばすための授業内容は十分ではない。
3. 様々な材料や用具の扱い、製作の方法や技法を習得するための授業内容はほぼ満たされているが一部の題材を加える必要がある。
4. 造形表現活動の目的、指導方法を理解するための授業内容は、共同製作のねらいや指導法、作品を見合って楽しむこと、保育者や子どもが身のまわりの美しいものや良いものにどう関わっていくかについての指導が不十分である。また、造形表現活動の指導上の留意事項の説明については、子どもとの関わり方についての具体的な例を上げるなどして分かりやすくすることなどの工夫ができる。
5. 造形表現活動の指導について意識し、できる範囲で経験するための授業内容はこれから新しく作りだしていかなければならない。

(2) 改善の要点

1. 受講生の造形感覚を高め、造形的な表現力を伸ばすための指導の充実をはかる。
2. 自然の素材を扱う題材を取り扱う。
3. 共同で製作することに関わる題材を取り扱うとともに、その目的や指導方法について理解させる。
4. お互いの作品を見合って楽しむことや、お互いの作品を味わうこと、作品製作に関わるアイデアを出し合うことや、お互いに影響を与え合うことなどの経験を深める。
5. 身のまわりの美しいものや良いものを見出し、受けた感動を作品として表現したりする経験を通して、美に対する感性や美を愛好する心情を高め、子どもによい影響を与えることができるようにする。

9 アンケートの結果と考察

平成10年度後期実施初等教育科対象「保育内容の研究表現Ⅲ」（1単位）の授業評価をするためにアンケートを実施した。実施日は授業の最終日、平成11年2月4日である。配布数56のうち回答数は51であり、回答率は91%である。

(1) 達成度についての結果と考察

受講生がアンケートの初めの問いに対して5段階で評価した結果を以下に示す。左にそれぞれの人数を示し、右にその割合を示した。次に達成度の高いものから以下の基準でA～Dに分類した。

評価A 5段階評価の5が20名以上かつ5と4の合計が40名以上のもの（3が10名以下である）

評価B 5段階評価の5が15名以上かつ5と4の合計が37名以上のもの（3が15名以下である）

評価C 5段階評価の5が10名以上かつ5と4の合計が34名以上のもの（3と4の合計が17名である）

評価D 5段階評価の5と4の合計が30名以下で3が20名以上のもの（5が10名以下である）

	と て も					と て も				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
1. 表現の楽しさを感じることができた	36	12	3	0	0人	71	24	6	0	0%
2. 意欲を持って取り組めた	27	17	7	0	0	53	33	14	0	0
3. 色彩や形態の美しさを感じることができた	23	21	7	0	0	45	41	14	0	0
4. 自分の思いを表現することができた	18	16	15	2	0	35	31	29	4	0
5. 様々な材料を使って表現することができた	16	24	11	0	0	31	47	22	0	0
6. 発想が広がるようになった	18	16	17	0	0	35	31	33	0	0
7. 絵や立体に表現する能力が伸びた	7	23	21	0	0	14	45	41	0	0
8. 幼児の造形活動の目的や意義が分かった	20	17	14	0	0	39	33	27	0	0
9. 幼児の造形表現活動の指導上の留意点が分かった	13	21	16	1	0	25	41	31	2	0
10. 幼児の造形作品の評価方法が分かった	10	16	21	4	0	20	31	41	8	0
11. 幼児に造形表現活動の指導をしてみたいと思う	23	16	10	1	1	45	31	20	2	2
12. 身のまわりの美しいものに目が向くようになった	11	16	22	1	1	22	31	43	2	2

- 評価A 1 表現の楽しさを感じることができた
2 意欲を持って取り組めた
3 色彩や形態の美しさを感じることができた
- 評価B 5 様々な材料を使って表現できるようになった
8 幼児の造形表現活動の目的や意義が分かった
11 幼児に造形表現活動の指導をしてみたいと思う
- 評価C 4 自由の思いを表現することができた
6 発想が広がるようになった
9 幼児の造形表現活動の指導上の留意事項が分かった
- 評価D 7 絵や立体に表現する能力が伸びた
10 幼児の造形作品の評価法が分かった
12 身のまわりの美しいものに目が向くようになった

以上の結果より授業に意欲を持って取り組み、色彩や形態の美しさに触れながら表現を楽しむことについてはかなりの受講生がよく出来たと感じている。

また、受講生は幼児の造形活動の目的や意義を概ね理解することが出来ており、様々な材料を使って表現製作する経験を積んでいるので、その経験を生かして幼児に造形表現活動の指導をしてみたいと考えている者が多い。

しかし、自分の発想が広がるようになり、自分の思いを表現することができたとはっきりと言えない受講生が多い状況である。幼児に対する造形表現活動の指導上の留意事項については、ある程度分かったもののまだ十分ではないと感じている。

特に、その能力を伸ばすことができなかったと答えた受講生が多いのは、絵や立体に表現する創造力や、幼児の造形作品に対する評価法である。また、身のまわりの美しいものに目が向くようになったと答えた者は少ない。

(2) 授業の題材についての結果と考察

授業で経験して良かったと強く思うものについて五つ選択させた。それぞれの題材を選択した受講生の人数を示した。また、題材について経験して良かったと多くの受講生から回答があったものからA～Dの四段階に分類した。Aは10名以上が答えた題材、Bは5名以上が答えた題材である。Cは3、4名が答えた題材であり、Dは全く上げられなかったか1、2名が答えた題材である。題材A～Dについては回答の多かった順にその題材名を示した。

1 染め紙	26名	18 牛乳パックのけん玉	14名
2 合わせ絵	2	19 紙コップの風車	6
3 糸引き絵	6	20 わりばしの花	4
4 ローラー絵	3	21 スライム	16
5 にじみ絵	2	22 小麦粉粘土	15
6 三角かざぐるま	4	23 フィンガーペインティング	13
7 桜切り紙	6	24 お話の絵（あみものライオン）	8

8	作品に物語をつける	6名	25	生活の絵	0名
9	折り紙のくるくる	1	26	てぶくろの模様	1
10	新聞紙のちぎり絵	3	27	型押し	3
11	身近な人の顔	1	28	ペープサート	6
12	おみせごっこの商品	7	29	パネルシアター	32
13	染め紙のさいふ	8	30	作品集のまとめ	13
14	マープリング	14	31	作品集へのコメント交換	3
15	不思議な種	9	32	カエルのカスタネット	19
16	ポップアップ案内状	7	33	新聞紙の帽子	15
17	魚つり	3	34	牛乳パックのこま	4

題材A（10種類） パネルシアター 染め紙 カエルのカスタネット スライム 小麦粉粘土
新聞紙の帽子 マープリング 牛乳パックのけん玉 フィンガーペインティ
ング 作品集のまとめ

題材B（10種類） 不思議な種 染め紙のさいふ お話の絵（あみものライオン） お店ご
この商品 ポップアップ案内状 糸引き絵 桜切り紙 作品に物語をつけ
る 紙コップの風車 ペープサート

題材C（8種類） ローラー絵 三角かざぐるま 新聞紙のちぎり絵 魚つり わりばしの花
型押し 作品へのコメント交換 牛乳パックのこま

題材D（6種類） 合わせ絵 にじみ絵 折り紙のくるくる 身近な人の顔 生活の絵 てぶ
くろの模様

授業の題材評価の理由について、現在の授業の実態から気づいた点も含めて考察した。

初めて取り扱う技法やこれまで経験したことのない材料を扱う題材についてはそれを経験してよかったと答える受講生が多い。一方で今までに経験のある表現方法については、経験して良かったと答える受講生は少ない。経験のある技法を扱う題材は、そのねらいを技法の習得以外に置き、幼児に対する指導法を示したり、立体作品への応用の仕方を提示することで学習効果を高めることができると考えられる。

幼児と共に作って遊ぶことができる簡単なおもちゃ製作は経験して良かった題材にあげる受講生が多い。身近な材料でおもちゃが作れるというのは新鮮な体験のようである。今後は材料に自然物を取り入れたおもちゃや飾るものの製作を題材に加えたい。また、様々な製作例を知るために、作り方の説明だけをする場合があつて良いと考えている。

自分で物語りを考えたり、お話しの続きを考える題材は経験して良かったと答える受講生が多い。これらの経験がこれまでに少なかったからでないかと考えられる。想像力を働かせる題材は、幼児の造形活動で欠かせないもので、今後も取り上げて指導していきたい。また、現在授業で取り扱っている物語の絵については幼児にとって少し難しいので、簡単にする工夫をしたい。

パネルシアターやペープサートは幼児と共に製作するものでなく、保育者がそれを使って演じて見せるものとして授業で取り上げている。これらを製作して良かったと答える受講生は多い。形を簡単にすれば幼児と共に製作することができるので、今後も授業で取り上げていきたい。た

だ、製作にかなりの時間がかかるので、簡潔な作品にするなどの改善が必要であると考えられる。

(3) その他の事項に対する結果と考察

私語についてや講義と実技の配分、説明の分かりやすさなどの項目について問い、「そう思う」、「少しそう思う」、「そう思わない」の三つから一つ選択させた。また、授業内容等への要望を自由に記述させた。それらの結果を以下に示し、改善すべき点について考察した。

1. 私語がうるさい	そう思う 4名	少しそう思う 28名	そう思わない 19名
2. 講義の時間を多くしてほしい	そう思う 1	少しそう思う 8	そう思わない 42
3. 講義より実技の時間を増やしてほしい	そう思う 21	少しそう思う 21	そう思わない 9
4. 講義が分かりにくい	そう思う 0	少しそう思う 8	そう思わない 43
5. 製作の説明が分かりにくい	そう思う 1	少しそう思う 10	そう思わない 40
6. 黒板の字が読みにくい	そう思う 0	少しそう思う 5	そう思わない 46
7. 質問や意見などの発表の機会を増やしてほしい	そう思う 1	少しそう思う 7	そう思わない 43

楽しかった／一回にやる作品が多過ぎる／とても楽しかったし為になった。ペープサート・パネルシアターを実習先に持って行って、是非反応を見たいと思う。やり甲斐のある授業だった／牛乳パックのけん玉は姉の子供が大変喜んだので、もっと教えて欲しかった。実習前に良いものが作れた／私はとても楽しかった／面白かった。色々な表現をしたいと思えるようになった／十分に楽しかったので特にない／とても楽しい授業だった／すごく楽しかった。製作するのもいいが、グループでパネルシアターを発表する機会をもっと持って欲しい（回答数10）

私語について少しうるさいと感じている受講生が多い。私語対策の配慮が必要であると考えられる。

講義と実技の割合については、実技の方を求める受講生が多い。講義をなくすことは出来ないが、簡潔に説明する工夫をしたい。

講義や製作の説明が少し分かりにくいと答える受講生がある程度いる。私語を解消しなければならない。また、製作の説明を早口でしていた様だ。はっきりと伝わるような示し方をしたい。黒板の文字については読みにくいと答える受講生は少ないが、分量が多くなり過ぎないようにしたい。

発表の機会を増やすことについては、共同製作の機会を設け、その場面で声を掛け合うなどの経験をさせたいと考えている。また、授業の始めに一、二人に前回の作品を提示しながら解説させるなどして作品を鑑賞し合うことも意味ある経験として位置づけることができるのではないかと考えている。

10 授業内容の検討及びアンケートの結果と考察から得られた改善の要点

1. 受講生の美的感覚や発想力，表現力を養うための指導の充実をはかる。
2. 幼児の造形表現活動に対する指導上の留意事項や幼児の作品に対する評価法などについての指導の充実をはかる。
3. 受講生が身のまわりの美しいものや良いものに目を向け，それを表現する経験を深めさせる。
4. 実技で扱う題材について，受講生がこれまでその技法や材料について取り扱ったことがあるものについては，幼児への指導法を示したり，別の題材を組み合わせたり，新たな展開を示したりして学習効果を高める。
5. 自然物を材料とした題材を取り入れる。
6. おもちゃや飾るものの製作については，実際に製作せずに，作品例の説明にとどまる場合があつて良い。
7. パネルシアター，ペープサートについては製作に時間を取られ過ぎないようにする。
8. 私語をなくす。
9. 共同製作の機会を設け，お互いに声を掛け合ったり，影響し合って製作する体験をさせる。
10. 作品を鑑賞し合う機会を設け，作品の良さを読み取る力をつける。

11 美的感覚や発想力，表現力，鑑賞する能力を高めるための指導

改善の要点の1，3，10を受け，受講生の美的感覚や発想力，表現力を高め，身のまわりの美しいものや良いものに目を向け，それを表現し，鑑賞し合う経験を深めるための教材を考え，現在，平成11年度前期初等教育科対象「教材研究図画工作」の中に取り入れている。「教材研究図画工作」は先に分析した平成10年度初等教育科対象「保育内容の研究表現Ⅲ」を受講した学生の多くが履修している授業科目である。これまで実施していた授業内容を上記ねらいを意識した上で改善し指導している。題材及び材料は以下の通りである。

題材	材料・技法
美の発見帳をつくろう	色鉛筆，貼り絵
〇〇している手	コンテパステル
学友の横顔	コンテパステル
抽象画をかこう	水彩絵具
風景から発想して	水彩絵具，コンテパステル，色鉛筆
ー形や色をかえてかこうー	
写真のコピーをコラージュする	水彩絵具，コピー，パラフィン紙，サインペン
自分の好きな絵の模写をしよう	水彩絵具，色鉛筆

自分の好きなタイトルをつけた六枚綴りの小さなスケッチブック（十六切サイズ）を作成し表紙

をつけたものに六種類の絵をえがく活動である。それぞれの題材は自分の思いや個性が発揮できるもので、製作の際には、例示の後、リズムやバランス、色彩の対比、明暗など美の構成要素について取り上げ説明した。身のまわりのものに目を向け、美を意識し、自分なりの調和を追求することで、美的感覚や、発想力、表現力を高めることをめざした。個別指導の際には構図のよさや色彩の響き合いに気づかせるようにした。筆者が他のクラスの受講生の作品を紹介する時は、どこがいいか、どこに調和があるかなど具体的に示した。また、受講生が自分の作品を説明、紹介する機会を設け、お互いの作品を鑑賞することができるようにした。

どの程度ねらいが達成されたかについては授業がまだ終了していない現段階では明らかではない。美的感覚や発想力、表現力、作品を鑑賞する力を伸ばすことができたかについては先に実施したアンケートの中からいくつかの項目を選んで再び問いかけ、達成度を把握したいと考えている。美的感覚や発想力、表現力、作品を鑑賞する能力を高めることは「保育内容の研究表現」以外の授業科目（「図画工作Ⅰ」，「図画工作Ⅱ」，平成12年度開講予定の「指導法研究 図画工作」）においても指導をすることができると考えている。

12 まとめと今後の課題

授業科目「保育内容の研究表現」（造形表現）の目的を5項目示すことができた。また、「保育所保育指針」，「幼稚園教育要領」から幼児が行う造形表現活動の内容や、造形表現活動の指導上の配慮事項について、実際に授業で取り上げて指導しているかを検討し、改善の要点5項目を明らかにすることができた。

授業についてのアンケート調査からは、学生の意欲、能力、習得、理解などの達成度や、経験してよかったといえる題材、授業に対する要望等を明らかにすることができた。先の授業内容の検討から導き出された5項目の改善の要点とアンケート結果から考察した事項を併せて、10項目の改善の要点を明らかにすることができた。

これまでの授業の成果と授業改善の要点を示すことができたことが本研究の成果である。そして、得られた改善の要点を授業で生かしていくことが今後の課題である。

10項目の改善の要点のうち項目1，3，10については既にその取り組みを「教材研究図画工作」で始めている。「保育内容の研究表現」以外の授業においても指導が可能な事項であると考えているからである。

その他の改善の要点を授業に生かすために次のことを考えている。項目4，6，7は改善が容易な事項であり、意識して授業をしたい。項目2，9については更なる教材研究，教材開発をし、指導の充実に努めたい。項目5については、現在準備中であるレクリエーションインストラクター養成に関わる認定科目「レクリエーション実技（クラフト）」と関連させて指導していきたい。項目8は、他の授業科目でも問題となっている事項である。授業内容の充実を図るとともに、他の教員の実践を参考にして対処したい。

本研究の成果を今後に生かし、教材を固定化させるのではなく、社会の変化や受講生の実態に応じた題材を準備するために教材研究，教材開発を続けていきたいと考えている。

注

- (1) 文部省「小学校指導書 図画工作編」開隆堂出版 1989 p.6
- (2) 文部省「幼稚園教育要領」厚生省児童家庭局「保育所保育指針」チャイルド本社 1996 p.10, 45, 51, 57, 63
- (3) 実技の材料・技法／参考資料
 - 実技1 障子紙，プロシオン染料，ソーダ灰 紙を折り，染液に浸ける
 - 実技2 水彩絵具，画用紙／林 建造・斎藤顕治・枝常 弘編「絵画製作・造形実技編」東京書籍 1886 p.40
 - 実技3 風糸，水彩絵具，画用紙／林 建造・斎藤顕治・枝常 弘編 同書 p.51
 - 実技4 コロッコローラー，水彩絵具，画用紙，折紙／花篤 實・岡田愨吾・辻 正宏編「造形表現 実技編」三晃書房 1994 p.119
 - 実技5 水彩絵具，画用紙 紙を湿らせて描く／としくらえみ「子ども・絵・色 シュタイナー絵画教育の中から」イザラ書房 1997 p.72～88
 - 実技6 色画用紙，風糸，サルカン，割箸／「全国造形教育研究大会1992／京都大会」第45回全国造形教育研究大会京都大会実行委員会 1992 p.83
 - 実技7 二折にした新聞紙で袋をつくり，桜・星・梅の切り紙を貼る
 - 実技8 合わせ絵を鳥や蝶の形に切る
 - 実技9 ローラー絵の上に折紙で貼り絵をして，物語をつくる
 - 実技10 折紙2枚を使ってまわるおもちゃをつくる
 - 実技11 色画用紙の帯を加工して巻く
 - 実技12 新聞紙をちぎり偶然できた形から発想する
 - 実技13 肌色の紙を顔型に使い，顔や髪をクレヨン・絵具で描き，服を包装紙で貼る
 - 実技14 パラフィン紙，クラフト紙，折紙，使い捨て容器 紙を丸めたり，ちぎったりして食べ物などをつくる
 - 実技15 染め紙をさいふの形に折り，穴をあけて毛糸でかかる
 - 実技16 画用紙にクレヨンで形をえがき，切り抜いてマープリング絵具で染める
 - 実技17 不思議な種から育つ植物を想像して絵具で描く
 - 実技18 画用紙，折紙／吉永八千代編「幼稚園・保育所の保育内容－理論と実践－保育「表現」Ⅱ（造形）」1992 p.112～113
 - 実技19 紙袋に丸めた新聞紙を入れ糸でしばり，魚に見立て，釣口をつける
 - 実技20 牛乳パックの底と小さな紙を丸めた玉を糸でつなぎ，持ち手をつける
 - 実技21 折紙で模様をつけた紙コップに縦に切り込みを入れ，斜めに折って羽とし，中心から竹串を差してストローで受ける
 - 実技22 折紙に切り込みを入れて両面テープで割箸に貼る
 - 実技23 P. V. A. 入り洗濯糊，ホウ砂，食紅／花篤 實・岡田愨吾・辻 正宏編 前掲書 p.32
 - 実技24 小麦粉，塩，サラダオイル，色紅／J. マーゾッロ・J. ロイド「あそびながら学ぶ手づくり幼児教育のすすめ」1886 p.170
 - 実技25 小麦粉，塩，食紅／ルース・フェゾン・ショウ「フィンガーペインティング 子どもの

- 自己表現のための完璧な技法」黎明書房 1982 p.239
- 実技26 水彩絵具，クレヨン，画用紙 にじみ絵 お話を途中まで聞き，続きを想像して描く／
なかえよしお作・上野紀子絵「あみものライオン」絵本館 1979
- 実技27 クレヨン，色鉛筆，画用紙 出来事を思い出して描く
- 実技28 水彩絵具，クレヨン，画用紙 はじき絵 手型を取り，模様を描く
- 実技29 水彩絵具，画用紙，スポンジ，木片，様々な型／林 建造・斎藤顕治・枝常 弘編 前
掲書 p.39
- 実技30 画用紙，ポスターカラー，割箸／阿部 恵「新ペープサート」ひかりのくに 1998／山
本駿次郎「子どもとつくるペープサート」小学館 1986
- 実技31 不織布，ネル，ポスターカラー／古宇田亮順 松田治仁編「パネルシアターをつくる 1
～6」平文社 1992
- 実技32 作品を交換してコメントを書く
- 実技33 二折にした紙皿に貝殻を二個貼り楽器をつくり，色画用紙で飾る
- 実技34 新聞紙／田中保男「えがくこと，つくること」ミネルヴァ書房 1977 p.180
- 実技35 牛乳パック／木内 勝「牛乳パックでつくる」創和出版 1991 p.26, 28
- (4) 「幼稚園教育要領」文部省「保育所保育指針」厚生省児童家庭局 チャイルド本社 1996 p.9,
10, 44, 49, 50, 55, 56, 62
- (5) 「幼稚園教育要領」文部省「保育所保育指針」厚生省児童家庭局 チャイルド本社 1996 p.
10, 45, 51, 57, 63

[1999年11月30日 受理]